

# 第5章 関係機関の対応

## 1 消防庁の対応

### ① 消防庁の体制

10月6日（金） 13時41分 消防庁災害対策本部設置

11月2日（木） 20時40分 消防庁災害対策室へ移行

### ② 消防庁の対応

震度4以上を記録した県に対し適切な対応及び被害報告について指示するとともに、当該地域を管轄する消防本部に直接被害状況を問い合わせた。

消防庁長官が鳥根県に対し広域航空消防応援の要請を行い、神戸市及び広島市に対し広域航空消防応援及び緊急消防援助隊の出動要請を行った。

徳島県及び香川県の各知事から消防庁長官に対し消防応援の要請があり、これに基づき大阪市に対して広域航空消防応援の要請を行った。

10月6日（金） 13時41分 気象FAXを受信（震度6強）

13時43分 震度4以上を記録した県に対し適切な対応及び被害報告について指示

13時43分 各消防本部に対し被害情報収集開始

10月7日（土） 8時～18時30分 政府調査団に防災課長ほか2名を派遣

(10月6日以降逐次、関係地方公共団体及び消防機関からの被害情報収集、応急対策に関する連絡調整等を実施)

## 2 鳥取県の対応

### ① 鳥取県の体制

10月6日（金） 13時30分 災害対策本部設置

11月2日（木） 19時40分 災害復興本部へ移行

### ② 鳥取県の対応

10月6日以降被災市町村に対し、災害応援のため職員を派遣、また食料等の調達・配布を行った。

## 3 受援状況

### ① 救急隊の受援状況

10月6日（金）管轄内の3病院が地震により被害を受け、重症者等の診療が出来なくなったことから、多数の患者に対し転院搬送を余儀なくされ、鳥取県下広域消防相互応援協定（第4条：応援要請及び第6条：応援隊の派遣）に基づき、鳥取県東部広域行政管理組合消防局及び鳥取中部ふるさと広域連合消防局から、それぞれ救急隊の応援を受けた。

10月6日（金）	鳥取中部ふるさと広域連合消防局	救急隊 1隊 3名
10月7日（土）	鳥取中部ふるさと広域連合消防局	救急隊 2隊 6名
	鳥取県東部広域行政管理組合消防局	救急隊 2隊 6名



航空隊員の活動状況

## ② ヘリコプターの受援状況

鳥取県下広域航空応援協定、大規模特殊災害時における広域航空消防応援実施要綱及び緊急消防援助隊要綱に基づき、広島市消防局航空隊、神戸市消防局航空隊及び鳥取県消防防災航空隊より、救助活動及び災害状況の情報収集等の応援を受けた。

### 《広島県警察ヘリコプター》

中国管区広域緊急警察合同訓練に参加中、災害情報を覚知し、15時00分鳥取空港から出動。15時30分大山三鈷峰の要救助者男性1名を救助。

### 《広島市消防ヘリコプター》

自治省消防庁より、緊急消防援助隊の先遣隊として調査要請があり、14時10分出動。上空偵察及び大山三鈷峰の要救助者の捜索を実施。

### 《神戸市消防ヘリコプター》

自治省消防庁より、緊急消防援助隊の先遣隊として調査要請があり、14時00分出動。

主に、西伯郡方面の上空偵察及び大山三鈷峰の要救助者を捜索し、16時59分要救助者無しを確認。

### 《鳥取県消防防災ヘリコプター》

鳥取県西部消防局より、鳥取県広域航空消防応援協定に基づき、13時54分出動。

西部消防局管内全域にわたり上空偵察を実施するとともに、ヘリテレにより被害状況を西部消防局災害対策本部及び鳥取県災害対策本部に送信した。同時に鳥根県消防防災航空隊を経由して消防庁災害対策本部に送信した。



物資搬送状況

## 4 消防団の活動概況

### ① 消防団の活動概況

米子市、境港市、西伯郡、日野郡の各消防団は、防災無線あるいは加入電話などで召集し、それぞれの管轄市町村の危険箇所の警戒及び巡回・被害状況の調査や消防水利の点検等を行った。



警戒活動状況

### 消防団の活動概況

市町村名	分団(団)	団員数(人)	活動概況
米子市	25	480	6日 14時から21時まで警戒
境港市	6	112	6日 13時40分から23時30分まで警戒 23時30分からは自宅待機
西伯町	4	101	6日 14時から各地区の被害状況の確認 7日 午前1時まで役場待機 午前1時から自宅待機 午前7時に再度召集
会見町	3	60	6日 町内損害調査および広報
岸本町	7	239	6日 自宅待機
日吉津村	1	16	6日 村内巡回 自宅待機
淀江町	2	44	6日 15時から24時まで防火水槽等水利点検巡回 7日 0時から自宅待機
大山町	3	42	6日 自宅待機
名和町	2	43	6日 自宅待機
中山町	5	67	6日 自宅待機
日南町	7	102	6日 町内巡回点検
日野町	4	77	6日 危険箇所の巡回および家屋調査
江府町	2	46	6日 断水地区に飲料水配付
溝口町	4	69	6日 崖崩れ箇所の警戒および町内巡回および広報
合計	75	1498	

# 3

新聞報道記錄

# 第1章 鳥取県西部地震の新聞報道記録

この報道記事は、各新聞社のご了解を得て鳥取県西部地震関連の記事を、発生から1週間を日付順に、そして2週間後・1か月後をそれぞれ載せたものです。

なお、掲載後の訂正記事等は反映させておりません。

報道記事の掲載にご協力頂いた報道機関名（順不同）

読売新聞社・朝日新聞社・産経新聞社・新日本海新聞社・山陰中央新報社

## 震災翌日

10月7日付 日本海新聞

(1)
2000年(平成12年)10月7日 土曜日
第38454号 (日刊)

# 鳥取県西部で大地震



強い地震で破壊した民家＝6日午後5時20分、鳥取県境港市

## 境港、日野震度6強

### M7.3「阪神」上回る

**100棟全半壊**  
**42人重軽傷**

鳥取県境港市の被災状況。写真は6日午後5時20分、鳥取県境港市で発生した地震による被害の様子。写真は6日午後5時20分、鳥取県境港市で発生した地震による被害の様子。

鳥取県境港市の被災状況。写真は6日午後5時20分、鳥取県境港市で発生した地震による被害の様子。写真は6日午後5時20分、鳥取県境港市で発生した地震による被害の様子。

**近畿、中四国で57人がけが**

鳥取県境港市の被災状況。写真は6日午後5時20分、鳥取県境港市で発生した地震による被害の様子。写真は6日午後5時20分、鳥取県境港市で発生した地震による被害の様子。

**きょう国十**

鳥取県境港市の被災状況。写真は6日午後5時20分、鳥取県境港市で発生した地震による被害の様子。写真は6日午後5時20分、鳥取県境港市で発生した地震による被害の様子。

**地震関連ニュース**

鳥取県境港市の被災状況。写真は6日午後5時20分、鳥取県境港市で発生した地震による被害の様子。写真は6日午後5時20分、鳥取県境港市で発生した地震による被害の様子。

**各地の主な震度**

鳥取県境港市の被災状況。写真は6日午後5時20分、鳥取県境港市で発生した地震による被害の様子。写真は6日午後5時20分、鳥取県境港市で発生した地震による被害の様子。

### 日本海新聞

発行所 新日本海新聞社  
〒690-0001 鳥取県境港市日野1-1-1  
電話(0871)22-2000  
西日本本社 電話(0871)22-2000  
中部本社 電話(0871)22-2000  
〒690-0001 鳥取県境港市日野1-1-1  
電話(0871)22-2000  
西日本本社 電話(0871)22-2000  
中部本社 電話(0871)22-2000  
〒690-0001 鳥取県境港市日野1-1-1  
電話(0871)22-2000  
西日本本社 電話(0871)22-2000  
中部本社 電話(0871)22-2000

# 鳥取県西部中心に強い地震



鳥取県西部に震源があった鳥取大社上宮の鳥居が倒壊した様子。6日午後4時10分

## 境港6強、米子5強、松江5弱

### 山陰両県 35人が重軽傷

#### 被災者援助法の適用申請

鳥取県西部に震源があった鳥取大社上宮の鳥居が倒壊した様子。6日午後4時10分



#### 島根原発 異常な

島根県松江市の島根原子力発電所(島根原発)が、地震発生直後に異常な挙動を示したことが、島根県原子力安全対策課の調査で明らかになった。同課は7日、島根原発の運転を一時停止し、原因を調査している。同原発は、鳥取県西部に震源があった鳥取大社上宮の鳥居が倒壊した様子。6日午後4時10分

市町村	震度
境港	6強
米子	5強
松江	5弱
鳥取	4強
倉吉	4弱
雲南	3強
雲南市	3強
倉吉市	3強
鳥取市	3強
鳥取県西部	3強
鳥取県東部	3強
島根県	3強
岡山県	3強
広島県	3強
山口県	3強
徳島県	3強
香川県	3強
愛媛県	3強
高知県	3強
福岡県	3強
佐賀県	3強
長門県	3強
大分県	3強
熊本県	3強
鹿児島県	3強
沖縄県	3強

10月7日付 山陰中央新報

山陰中央新報

山陰中央新報社

山陰の名産

鳥取県西部地震関連ニュース

# 鳥取西部で震度6強



## M7.3 西日本各地で揺れ

### 47人けが、家屋274棟損壊

#### 余震153回、停電や断水も



#### 空や陸

鳥取県西部に震源があった鳥取大社上宮の鳥居が倒壊した様子。6日午後4時10分

10月7日付 読売新聞

# 必死の避難



危険防止のため屋外に避難する、震源に近い鳥取県日野町の日野郡厚生連日野病院の入院患者や職員＝6日午後4時12分、共同通信社ヘリから

ひびの入った1万トンの岸壁後ろのエプロン＝6日午後2時、境港市昭和町



1階部分が倒壊落ちたオオカキ茶店＝6日午後2時50分、米子市鳥居町1丁目

地震のため列車が運休となり、困惑する利用客＝6日午後4時、JR鳥取駅



10月7日付 日本海新聞

# 突き上げる恐怖の衝撃



## 鳥取県西部地震

### 家屋倒壊に液状化現象

#### 無残な傷跡さらす

鳥取県西部を襲った地震は、家屋の倒壊や地盤の液状化現象を引き起こし、甚大な被害をもたらした。鳥取県西部の各地で、家屋の倒壊や地盤の液状化現象が確認された。鳥取県西部の各地で、家屋の倒壊や地盤の液状化現象が確認された。鳥取県西部の各地で、家屋の倒壊や地盤の液状化現象が確認された。

#### 米子

買物「無我夢中」女性 米子市で、買い物中に地震が起きたという女性が、無我夢中になっていたと語った。

#### 後藤家住 土塀が倒

#### 堤防道路で

10月7日付 山陰中央新報





# 「現地状況どうなっている」

## 県西部地震 緊張の災害対策本部



鳥取県西部の地震に引き起こされた災害対策本部では、県内の被害状況を把握し、必要に応じて支援を要請している。また、被災者の安全確保と生活支援に努めている。

鳥取県西部の地震は、一部の家屋倒壊や土砂崩れなどの被害をもたらした。県庁は地震発生直後に、災害対策本部を設置し、関係機関と連携して対応している。

県庁は、被災者の安全確保と生活支援に努めている。また、被災者の安全確保と生活支援に努めている。

県庁は、被災者の安全確保と生活支援に努めている。また、被災者の安全確保と生活支援に努めている。

10月7日付 日本海新聞

# 動き出す復旧への営み



鳥取県西部の地震で倒壊した家屋の復旧作業が進んでいる。作業員は防護服を着用し、慎重に作業を進めている。

鳥取県西部の地震で倒壊した家屋の復旧作業が進んでいる。作業員は防護服を着用し、慎重に作業を進めている。

鳥取県西部の地震で倒壊した家屋の復旧作業が進んでいる。作業員は防護服を着用し、慎重に作業を進めている。

鳥取県西部の地震で倒壊した家屋の復旧作業が進んでいる。作業員は防護服を着用し、慎重に作業を進めている。

10月8日付 山陰中央新報

## 東大地震研解析 2つの地震が連動 阪神大震災と同じ現象

東大地震研解析、2つの地震が連動、阪神大震災と同じ現象

東大地震研は、鳥取県西部の地震と、その直前に発生した鳥取県中部の地震が、連動して発生したと解析している。

東大地震研は、鳥取県西部の地震と、その直前に発生した鳥取県中部の地震が、連動して発生したと解析している。

## 県内外からボランティア



神戸の団体「支援の輪」のボランティアが、被災地に物資を運搬している。

神戸の団体「支援の輪」のボランティアが、被災地に物資を運搬している。

神戸の団体「支援の輪」のボランティアが、被災地に物資を運搬している。

神戸の団体「支援の輪」のボランティアが、被災地に物資を運搬している。

# 家屋損壊2086棟

## 鳥取県西部地震



雨に濡れて屋根にビニールシートが掛けられた地域で被害を受けた民家＝7日午後4時10分、鳥取県白野町で共同通信社ヘリから

### 2市7町で2600人避難

### 116重軽傷 余震350回、断水続く

鳥取県西部地震は、7日午後4時10分、鳥取県白野町で発生した。震源地は鳥取県白野町、震源の深さは約10キロ。震度5弱を記録した。鳥取県西部地震は、7日午後4時10分、鳥取県白野町で発生した。震源地は鳥取県白野町、震源の深さは約10キロ。震度5弱を記録した。鳥取県西部地震は、7日午後4時10分、鳥取県白野町で発生した。震源地は鳥取県白野町、震源の深さは約10キロ。震度5弱を記録した。

M6.1

### 日本海新聞

発行所 新日本海新聞社  
〒690-0001 鳥取県鳥取市東町1-1-1  
電話 0859-22-1111  
西島本社  
〒690-0001 鳥取県鳥取市東町1-1-1  
電話 0859-22-1111  
中島本社  
〒690-0001 鳥取県鳥取市東町1-1-1  
電話 0859-22-1111

### 地震関

(24)

10月8日付 日本海新聞

# 「特殊な地盤が幸い」

## 縦揺れなく少なかった被害

### 鳥取大 助教授 ヘリで上空から調査

### 2つの地震が連動か

### 鳥取県西部地震 阪神大震災でも

### 鳥取県西部地震



地震によるがけ崩れで倒壊した1戸の被害現場。7日午前6時5分、鳥取県白野町で共同通信社ヘリから

### 政府調査団現地入り

### 局長官最大限の努力

鳥取県西部地震発生後、政府調査団が現地入りし、局長官が最大限の努力を尽くしている。調査団は、地震の発生時刻、震源地、震度などを調査し、被害の状況を把握している。また、被災者の生活支援や、被災地の復旧作業にも取り組んでいる。局長官は、被災者の生活再建に最大限の努力を尽くしている。調査団は、地震の発生時刻、震源地、震度などを調査し、被害の状況を把握している。また、被災者の生活支援や、被災地の復旧作業にも取り組んでいる。局長官は、被災者の生活再建に最大限の努力を尽くしている。

10月8日付 日本海新聞

# 日野 西白 病院機能マヒ 患者避難

## 鳥取県西部地震

### 家族気遣い不安な一夜

#### 自力で動けず「怖かった」

鳥取県西部地震発生後、鳥取市に避難した患者や家族は、避難先で不安な一夜を過ごすことになった。鳥取市立日野西白病院は、地震発生後、約10分後に停電し、病院機能が完全にマヒした。患者や家族は、自力で動けず、家族の気遣いもできず、不安な一夜を過ごすことになった。避難先では、家族の気遣いもできず、不安な一夜を過ごすことになった。



鳥取市立日野西白病院から米子市内の病院などに転院搬送される入院患者(前田浩行撮影)

鳥取市立日野西白病院は、地震発生後、約10分後に停電し、病院機能が完全にマヒした。患者や家族は、自力で動けず、家族の気遣いもできず、不安な一夜を過ごすことになった。避難先では、家族の気遣いもできず、不安な一夜を過ごすことになった。



鳥取大防災研究センター長 渡辺 勉 教授

なぜM7.3で被害少なかった

鳥取大防災研究センター長 渡辺 勉 教授は、鳥取県西部地震の被害が少ない理由について、断層の構造や震源の深さなどを指摘している。断層の構造は、比較的単純な構造であり、震源の深さは、比較的浅い。これらが、被害が少ない理由の一つと考えられている。



断層のすべり方向を示す矢印は、断層のすべり方向(北東)を示している。断層の傾斜は、北東に傾いている。

左に1.4メートル横ずれ  
断層の長さ、水平方向20キロ

溝口町役場は「危険」  
余震で崩壊の恐れ



鳥取県溝口町役場の職員が、溝口町役場の被災状況を示すパネルを説明している。パネルには、被災した建物の写真や、被災者の写真などが掲載されている。

10月8日付 山陰中央新報

## まるで野戦病院、



体育館に避難した日野西白病院の入院患者=6日午後10時40分、鳥取県日野町



炊き出しをするボランティアグループ=7日午前10時45分、鳥取県米子市錦町1丁目ふれあいの里



長さ約250分の亀裂が入った堤防の四方、岸壁=7日午前10時20分、鳥取県境港市昭和町



体育館に避難した公立日野病院の入院患者の食卓の世話をする看護婦=7日午前7時25分、鳥取県日野町

10月8日付 日本海新聞

# 防災無線で素早く対応 被災地支援に終日奮闘

【東京10月7日】片山町消防本部（本部長、片山博昭）が6日の地震発生後、被災地支援に終日奮闘した。被災地支援本部（本部長、片山博昭）が6日の地震発生後、被災地支援に終日奮闘した。被災地支援本部（本部長、片山博昭）が6日の地震発生後、被災地支援に終日奮闘した。



被災地の状況を報告する片山町長

片山町消防本部は、地震発生後、被災地支援本部（本部長、片山博昭）が6日の地震発生後、被災地支援に終日奮闘した。被災地支援本部（本部長、片山博昭）が6日の地震発生後、被災地支援に終日奮闘した。

## 情報収集迅速、的確に 県災害対策本部

10月8日付 日本海新聞

## 漁港岸壁が一部損傷 水産業に大打撃



被害を受けた漁港のカニかご岸壁

【東京10月7日】片山町消防本部は、地震発生後、被災地支援本部（本部長、片山博昭）が6日の地震発生後、被災地支援に終日奮闘した。被災地支援本部（本部長、片山博昭）が6日の地震発生後、被災地支援に終日奮闘した。

## 余震・地響き 募る不安



「怖くて帰宅できぬ」  
避難所 高齢者疲労濃く  
【日野町】

連休なのに…キャンセル続々  
観光地  
給水も茶色に濁る  
米子  
山口県

10月8日付 朝日新聞

社説  
全力で点検、安全確保を  
【東京10月7日】地震発生後、被災地支援本部（本部長、片山博昭）が6日の地震発生後、被災地支援に終日奮闘した。被災地支援本部（本部長、片山博昭）が6日の地震発生後、被災地支援に終日奮闘した。



鳥取西部地震の震源位置



鳥取西部地震の被害状況

### 鳥取西部地震 重軽傷120人、損壊2086棟

#### 気象庁、M7.3下方修正も

鳥取西部地震の被害状況が明らかになり、死者11人、重軽傷120人、損壊2086棟に達した。気象庁は震度をM7.3と下方修正し、震源は鳥取県西部の山間部にあると推定している。

鳥取県西部の山間部で発生した鳥取西部地震は、死者11人、重軽傷120人、損壊2086棟に達した。気象庁は震度をM7.3と下方修正し、震源は鳥取県西部の山間部にあると推定している。

10月8日付 産経新聞

### 鳥取県西部地震 エネルギー 被害に關係か

#### 東大地震研 数値分析

東大地震研は、鳥取西部地震のエネルギーと被害の関係を数値的に分析した。結果、震源からの距離が近いほど被害が深刻であると判明した。

### 阪神大震災の40%

鳥取西部地震の被害状況を阪神大震災と比較した。被害の規模は阪神大震災の約40%に相当する。

項目	鳥取西部地震	阪神大震災
死者	11人	2539人
重軽傷	120人	2465人
損壊棟数	2086棟	52万5千棟
罹災人口	約10万人	約200万人

10月8日付 読売新聞

### 横ずれ断層モデル 地震波とほぼ一致

#### 最大17%

鳥取西部地震の震源メカニズムを横ずれ断層モデルで解析した。地震波の観測値とほぼ一致し、最大17%のずれが生じたことが判明した。

### 被災地に雨 2次災害警戒

#### 鳥取県西部地震 被害さらに拡大

#### 鳥取、総額140億円に

鳥取西部地震の被災地に雨が降り、2次災害の警戒が必要とされている。鳥取県は被害総額が140億円に拡大したと発表している。



鳥取西部地震の被害状況

### 西伯で震度5弱

鳥取西部地震の影響は西伯地方まで広がった。西伯地方では震度5弱を観測された。

10月9日付 山陰中央新報



地震後初めての本格的な雨に備え、自宅の屋根にビニールシートを張る

鳥取西部地震の被災地に雨が降り、2次災害の警戒が必要とされている。鳥取県は被害総額が140億円に拡大したと発表している。

地震の構造と地震波の伝わり方

鳥取県西部地震

# 震源から100キロ「L波」

東京大教授 地下で反射、強い揺れ

鳥取県西部地震の震源から約100キロ離れた地域で、強い揺れが観測された。これは、地下で地震波が反射したためと見られる。東京大学地震学研究所の教授が、この現象について解説した。

鳥取県西部地震は、10月1日午前11時5分頃、鳥取県西部の島根県境付近で発生した。震源は約10キロの浅い深度にあり、マグニチュードは約6.9と推定されている。この地震は、鳥取県西部の多くの地域で大きな被害をもたらした。

地震発生後、鳥取県西部の各地で強い揺れが観測された。特に、震源から約100キロ離れた地域で、強い揺れが観測された。これは、地下で地震波が反射したためと見られる。東京大学地震学研究所の教授が、この現象について解説した。

教授によると、地震発生後、地下で地震波が反射し、強い揺れが観測された。これは、地下で地震波が反射したためと見られる。東京大学地震学研究所の教授が、この現象について解説した。

10月9日付 読売新聞

鳥取県西部地震

# 秋雨、住民に追い打ち

## 作業現場に土砂崩れ 避難所生活に不安

### 余震で遅れる復旧作業

鳥取県西部地震の被災地では、秋雨による土砂崩れが相次ぎ、避難所生活に不安が広がっている。また、余震の影響で復旧作業が遅れていると見られる。

鳥取県西部地震は、10月1日午前11時5分頃、鳥取県西部の島根県境付近で発生した。震源は約10キロの浅い深度にあり、マグニチュードは約6.9と推定されている。この地震は、鳥取県西部の多くの地域で大きな被害をもたらした。

地震発生後、鳥取県西部の各地で強い揺れが観測された。特に、震源から約100キロ離れた地域で、強い揺れが観測された。これは、地下で地震波が反射したためと見られる。東京大学地震学研究所の教授が、この現象について解説した。

鳥取県西部地震の被災地では、秋雨による土砂崩れが相次ぎ、避難所生活に不安が広がっている。また、余震の影響で復旧作業が遅れていると見られる。

10月9日付 朝日新聞

10月10日 新聞休刊日

10月11日付 日本海新聞

鳥取県西部地震

# 有感地震は次第に減少

## 最大余震 まだ記録されず

### 発生しない 震度5強 警戒必要

鳥取県西部地震の被災地では、有感地震は次第に減少している。しかし、最大余震はまだ記録されず、発生しない震度5強の警戒が必要とされている。

鳥取県西部地震は、10月1日午前11時5分頃、鳥取県西部の島根県境付近で発生した。震源は約10キロの浅い深度にあり、マグニチュードは約6.9と推定されている。この地震は、鳥取県西部の多くの地域で大きな被害をもたらした。

地震発生後、鳥取県西部の各地で強い揺れが観測された。特に、震源から約100キロ離れた地域で、強い揺れが観測された。これは、地下で地震波が反射したためと見られる。東京大学地震学研究所の教授が、この現象について解説した。

鳥取県西部地震の被災地では、有感地震は次第に減少している。しかし、最大余震はまだ記録されず、発生しない震度5強の警戒が必要とされている。

10月11日付 山陰中央新報

鳥取県西部地震

# JR、米子空港 完全復旧

## なお18校、休校続く

### 土砂崩れ 新たに避難勧告

鳥取県西部地震の被災地では、JR米子空港が完全復旧された。しかし、なお18校が休校を続け、新たに土砂崩れによる避難勧告が出ている。

鳥取県西部地震は、10月1日午前11時5分頃、鳥取県西部の島根県境付近で発生した。震源は約10キロの浅い深度にあり、マグニチュードは約6.9と推定されている。この地震は、鳥取県西部の多くの地域で大きな被害をもたらした。

地震発生後、鳥取県西部の各地で強い揺れが観測された。特に、震源から約100キロ離れた地域で、強い揺れが観測された。これは、地下で地震波が反射したためと見られる。東京大学地震学研究所の教授が、この現象について解説した。

鳥取県西部地震の被災地では、JR米子空港が完全復旧された。しかし、なお18校が休校を続け、新たに土砂崩れによる避難勧告が出ている。

鳥取県西部地震

# 力を合わせていこう

## 校舎に笑顔戻る

### 被災の学校、相次ぎ再開へ

鳥取県西部地震の被災地では、校舎に笑顔が戻る様子が見られる。被災の学校が相次ぎ再開へ向かっている。

鳥取県西部地震は、10月1日午前11時5分頃、鳥取県西部の島根県境付近で発生した。震源は約10キロの浅い深度にあり、マグニチュードは約6.9と推定されている。この地震は、鳥取県西部の多くの地域で大きな被害をもたらした。

地震発生後、鳥取県西部の各地で強い揺れが観測された。特に、震源から約100キロ離れた地域で、強い揺れが観測された。これは、地下で地震波が反射したためと見られる。東京大学地震学研究所の教授が、この現象について解説した。

鳥取県西部地震の被災地では、校舎に笑顔が戻る様子が見られる。被災の学校が相次ぎ再開へ向かっている。

10月11日付 日本海新聞

鳥取県西部地震

# 仮設ふる助かります

## サボイビス 被災の疲れいやす

鳥取県西部地震の被災地では、仮設住宅が提供され、被災者の疲れが癒やされています。

鳥取県西部地震は、10月1日午前11時5分頃、鳥取県西部の島根県境付近で発生した。震源は約10キロの浅い深度にあり、マグニチュードは約6.9と推定されている。この地震は、鳥取県西部の多くの地域で大きな被害をもたらした。

地震発生後、鳥取県西部の各地で強い揺れが観測された。特に、震源から約100キロ離れた地域で、強い揺れが観測された。これは、地下で地震波が反射したためと見られる。東京大学地震学研究所の教授が、この現象について解説した。

鳥取県西部地震の被災地では、仮設住宅が提供され、被災者の疲れが癒やされています。

10月11日付 山陰中央新報

2000年10月12日 木曜日 第3945号

# 住民生活 徐々に回復

## 鳥取県西部地震

### 米子空港が再開

#### 87校で授業スタート

#### 有感地震回数は急減



鳥取県西部地震発生から約1週間、被災地の住民生活は徐々に回復している。米子空港が再開し、87校で授業がスタートした。また、有感地震の回数は急減している。

米子空港は、地震発生後約1週間、閉鎖されていたが、10月11日に再開された。同日、県内の87校で授業がスタートした。被災地の学校では、授業再開に向けて準備を進めてきた。また、有感地震の回数は、発生後から急減している。これは、地盤の安定化や建物の耐震化が進んでいることが要因と見られる。

10月12日付 日本海新聞

# 激震 その時

## 119番 通報殺到、フル稼働





鳥取県西部地震発生直後、119番通報が殺到し、消防や救急隊がフル稼働した。被災地では、救助活動が急務とされている。また、被災者の心のケアも重要な課題となっている。

10月12日付 山陰中央新報

10月13日 震災1週間後

# 車で眠れぬ夜過ごす

## 鳥取県西部地震から1週間

### 尽きぬ生活への不安

#### 日野町下郷の石田さん夫婦に感謝



鳥取県西部地震発生から1週間、被災地の住民生活は徐々に回復している。しかし、被災者の生活への不安は尽きない。日野町下郷の石田さん夫婦に感謝の意を表す。

被災者の生活への不安は、被災後の生活環境や将来への見通しなどから生じている。被災者は、被災後の生活環境や将来への見通しなどから生じている。被災者は、被災後の生活環境や将来への見通しなどから生じている。

10月13日付 日本海新聞

10月13日付 山陰中央新報

# 被災者の心のケア支援へ

## 西部地震 助言や医師派遣

### 精神科ネットワーク構築

#### 鳥大医学部が結成



鳥取県西部地震被災者の心のケア支援のため、鳥取大学医学部が被災者支援ネットワークを構築し、精神科ネットワークを構築し、助言や医師派遣を行う。被災者の心のケア支援は、被災後の生活環境や将来への見通しなどから生じている。

10月20日 震災2週間後

# 震源メカニズム解明へ

## 鳥取県西部地震

### 東大と鳥大、鳥大など共同調査

#### 地震計2200個、余震を観測

#### がれき処理に苦慮



鳥取県西部地震の震源メカニズム解明のため、東大と鳥大、鳥大など共同調査を実施。地震計2200個を設置し、余震を観測している。また、被災地のがれき処理に苦慮している。

被災地のがれき処理は、被災後の生活環境や将来への見通しなどから生じている。被災者は、被災後の生活環境や将来への見通しなどから生じている。

10月20日付 山陰中央新報

10月20日付 日本海新聞

11月6日付 日本海新聞

### 鳥取西部 地震

## 県、直後に対策本部 生きた危機管理意識

鳥取県は、11月6日午後10時30分、鳥取県西部を震源とするマグニチュード5.0の地震が発生した。県は直後に対策本部を設置し、被害状況の把握や被災者の支援に当たっている。また、県民への危機管理意識の醸成を図っている。

対策本部は、県庁に設置され、県知事、副知事、各局長らで構成されている。また、関係機関との連携を図り、被災者の支援に当たっている。

また、県民への危機管理意識の醸成を図っている。防災訓練や防災講座などを実施し、県民の防災意識を高めている。

また、被災者の支援に当たっている。被災者の生活支援や心のケアなどを実施し、被災者の生活の安定を図っている。



### 鳥取西部 地震

<1>

11月7日付 日本海新聞

### 鳥取西部 地震

## 救出、1時間で終了 東中部応援もっと厚く

鳥取県西部を震源とするマグニチュード5.0の地震が発生した。救出作業は1時間で終了し、東中部からの応援も厚くなった。

救出作業は、地震発生直後から開始された。消防や自衛隊などが協力し、被災者の救出に当たっている。

また、東中部からの応援も厚くなった。消防や自衛隊などが協力し、被災者の救出に当たっている。

また、被災者の支援に当たっている。被災者の生活支援や心のケアなどを実施し、被災者の生活の安定を図っている。



### 鳥取西部 地震

<2>

11月13日付 日本海新聞

### 鳥取西部 地震

## 住民の連帯力ギ 結成と活動の充実に拍車

鳥取県西部を震源とするマグニチュード5.0の地震が発生した。住民の連帯力ギの結成と活動の充実に拍車がかかった。

住民の連帯力ギは、地震発生直後から結成された。住民の生活支援や心のケアなどを実施し、被災者の生活の安定を図っている。

また、活動の充実に拍車がかかった。防災訓練や防災講座などを実施し、住民の防災意識を高めている。

また、被災者の支援に当たっている。被災者の生活支援や心のケアなどを実施し、被災者の生活の安定を図っている。



### 鳥取西部 地震

<7>

11月16日付 山陰中央新報

### 鳥取県西部地震

## 発生時間や季節幸い 住民らの高い意識も

鳥取県西部を震源とするマグニチュード5.0の地震が発生した。発生時間や季節の幸い、住民らの高い意識も被害を軽減させた。

発生時間は、夜間であった。また、季節は比較的涼しい時期であった。住民らの高い意識も被害を軽減させた。

また、被災者の支援に当たっている。被災者の生活支援や心のケアなどを実施し、被災者の生活の安定を図っている。



プロパンガス漏洩はマイコンメーターと換気ホースで地震に備えたい



# 4

## 地震の検証

# 第1章 鳥取県西部地震アンケート調査結果

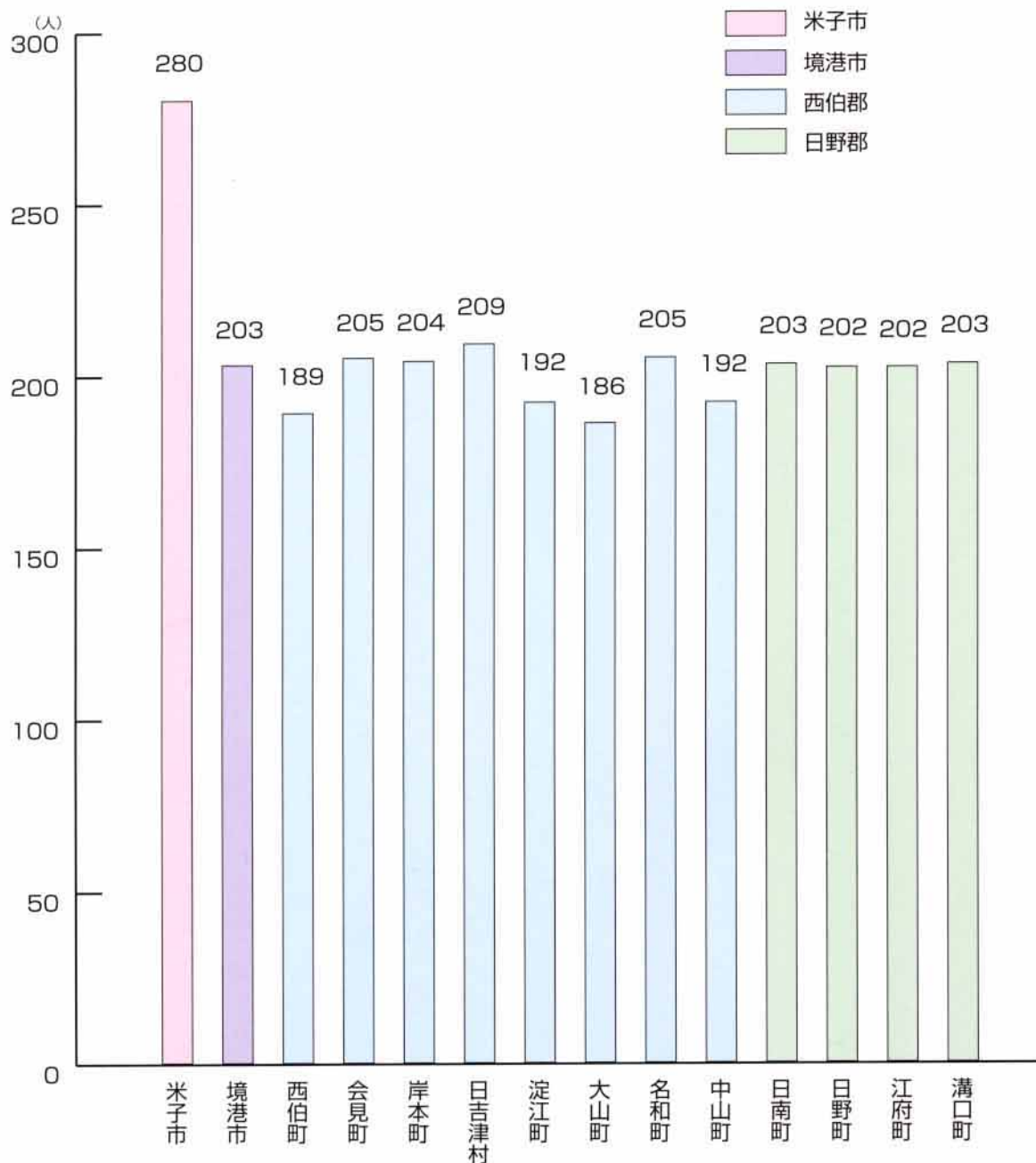
平成12年（2000年）鳥取県西部地震について、今後の消防局における震災対策施策上の参考とするため、次のアンケート調査を実施した。

調査件数：2875件（有効回答 2875人）

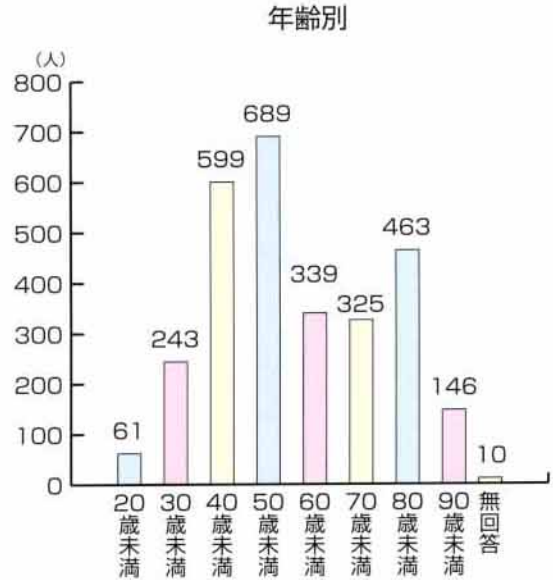
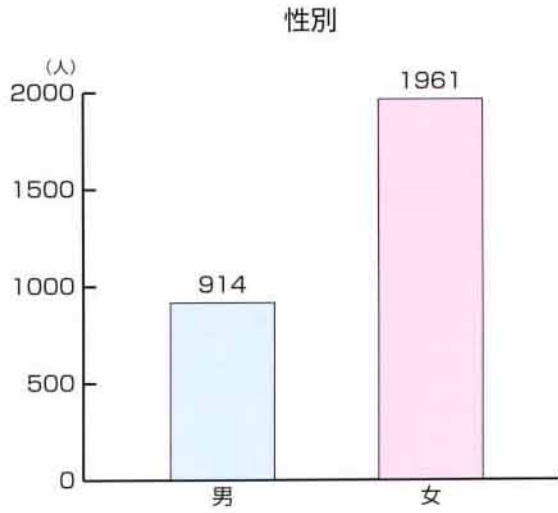
調査期間：平成12年11月1日から11月15日

調査方法：市町村ごとに無作為に抽出した家庭を消防職員が訪問し、聞き取り方式で調査を実施した。

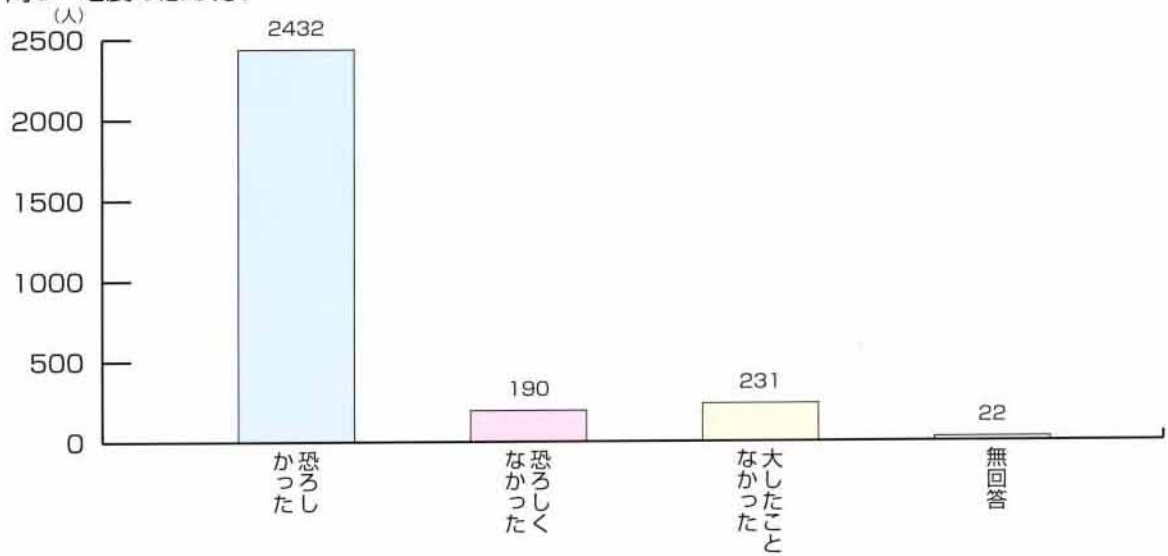
問1 あなたの居住地域はどこですか。



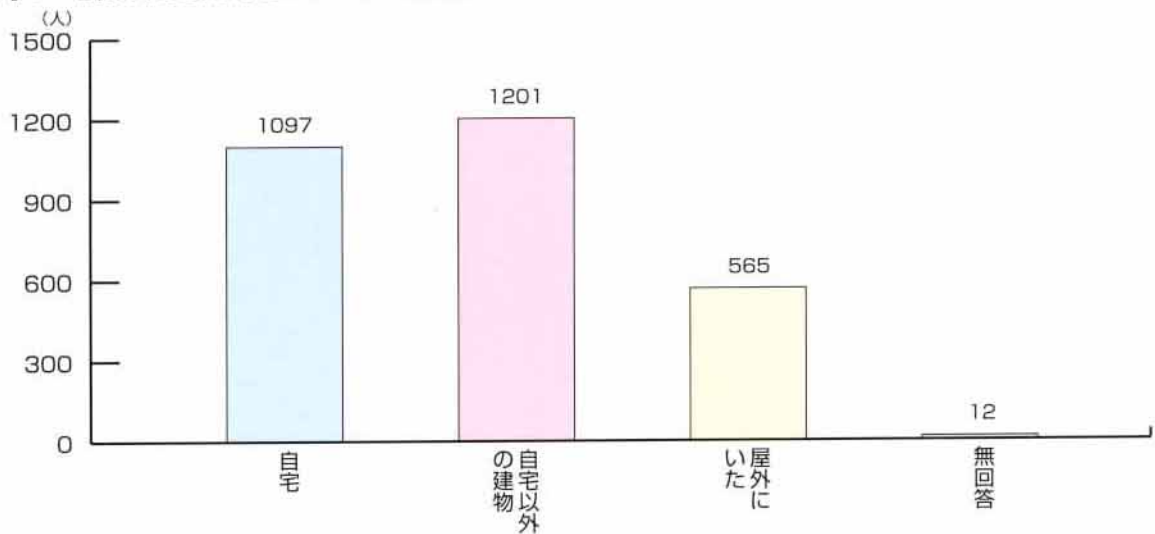
問2 あなたの性別と年齢をお答えください。



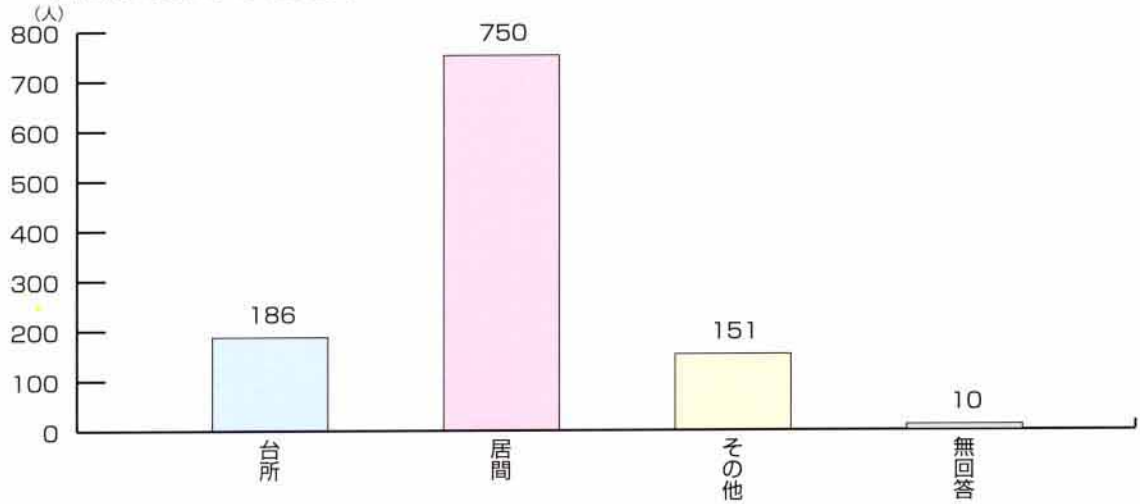
問3 地震の感じ方。



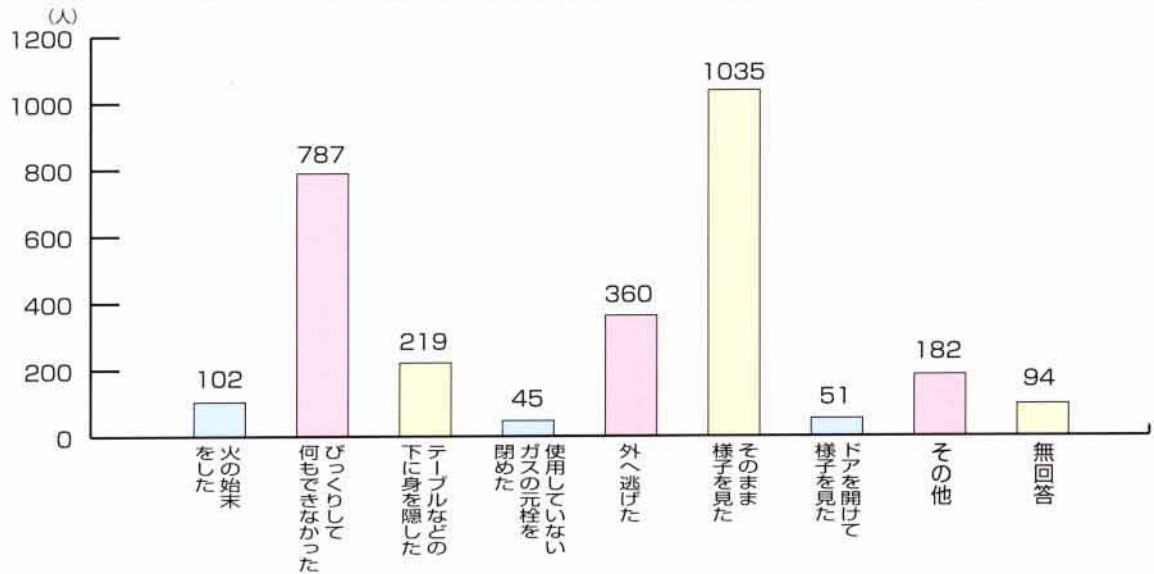
問4 地震が起きた時どこにいましたか。



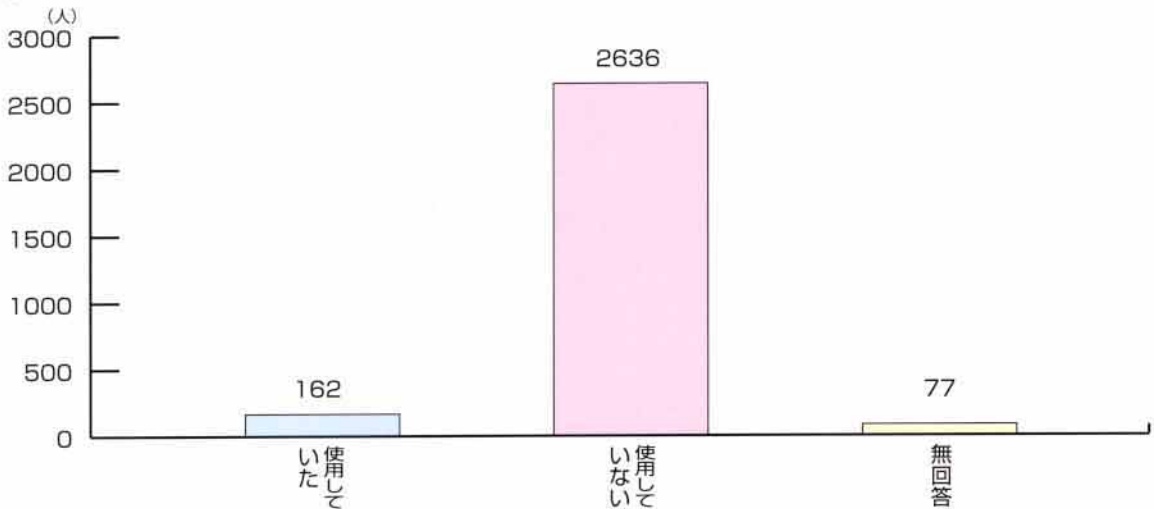
問5 問4で「自宅」と回答された方へ。  
自宅のどこにいましたか。



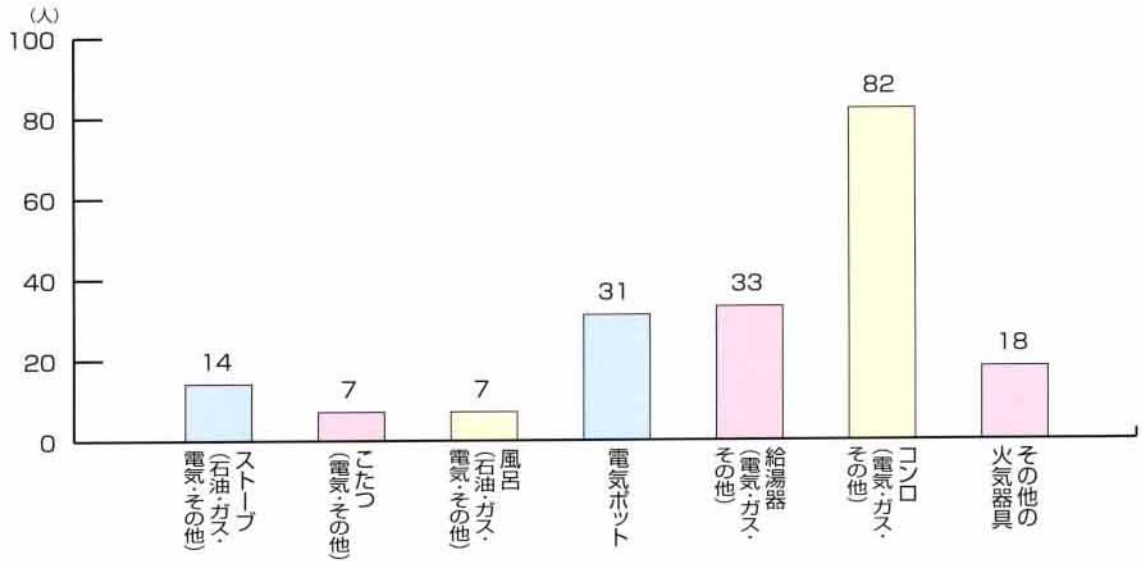
問6 地震の時、最初にどのような行動をしましたか。(一つだけ選んでください)



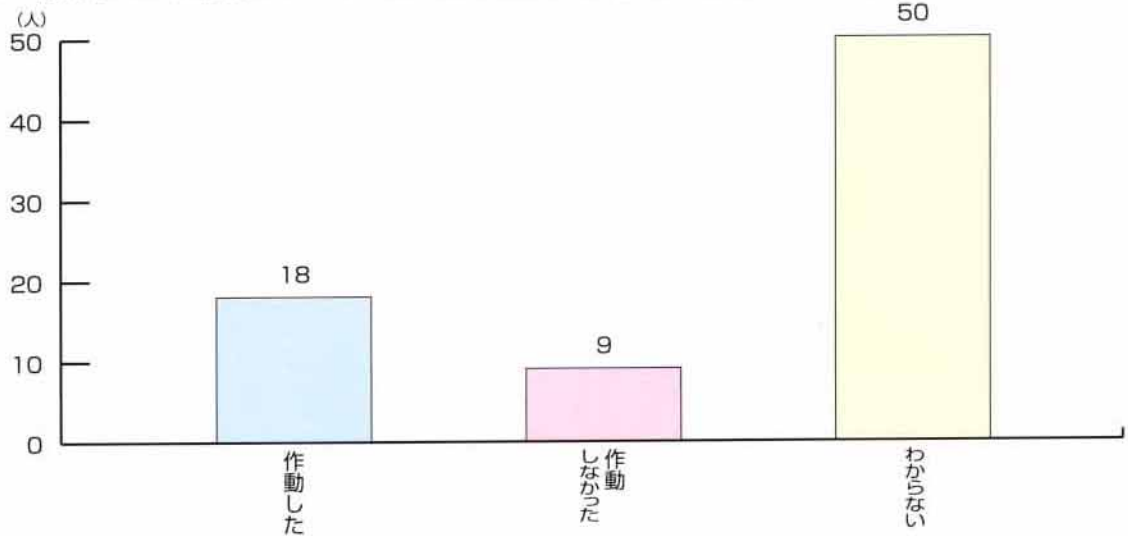
問7 地震の時、火気器具を使用していましたか。



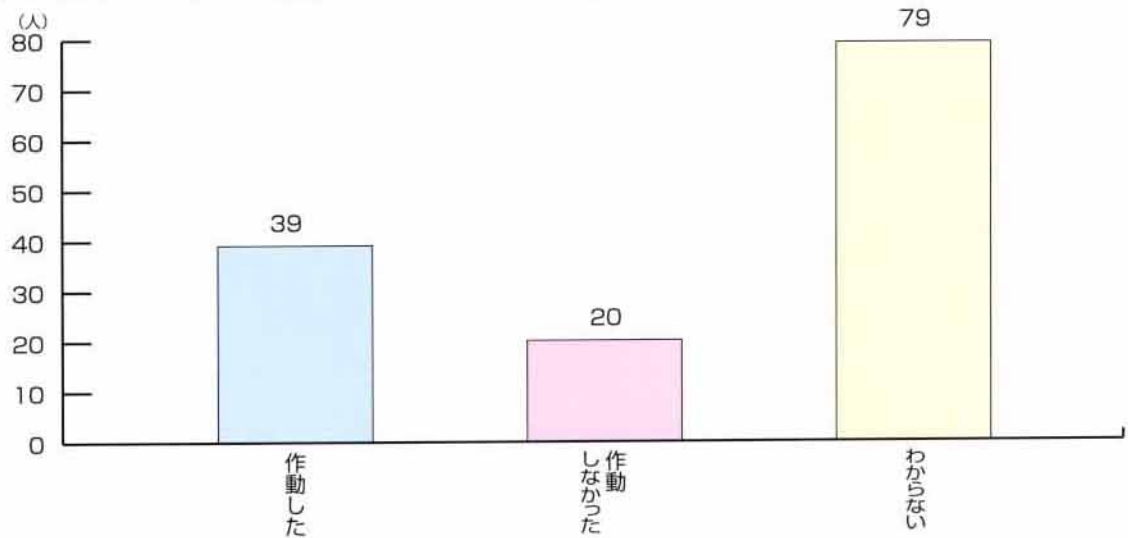
問8 火気器具を使用していた方は、火気器具の種類を教えてください。（複数回答可）



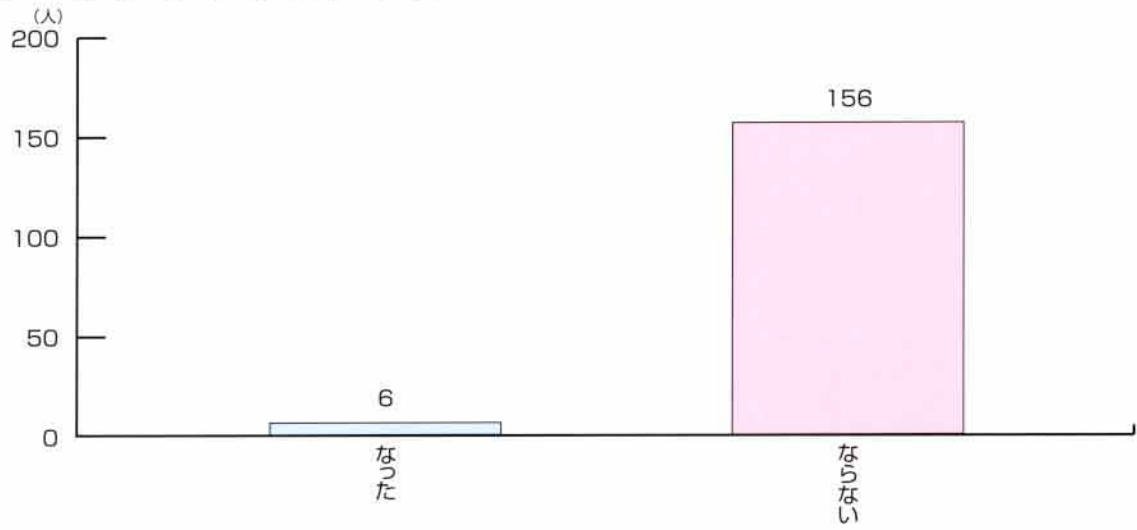
問9 使用していた石油ストーブ・風呂釜の対震自動消火装置は作動しましたか。



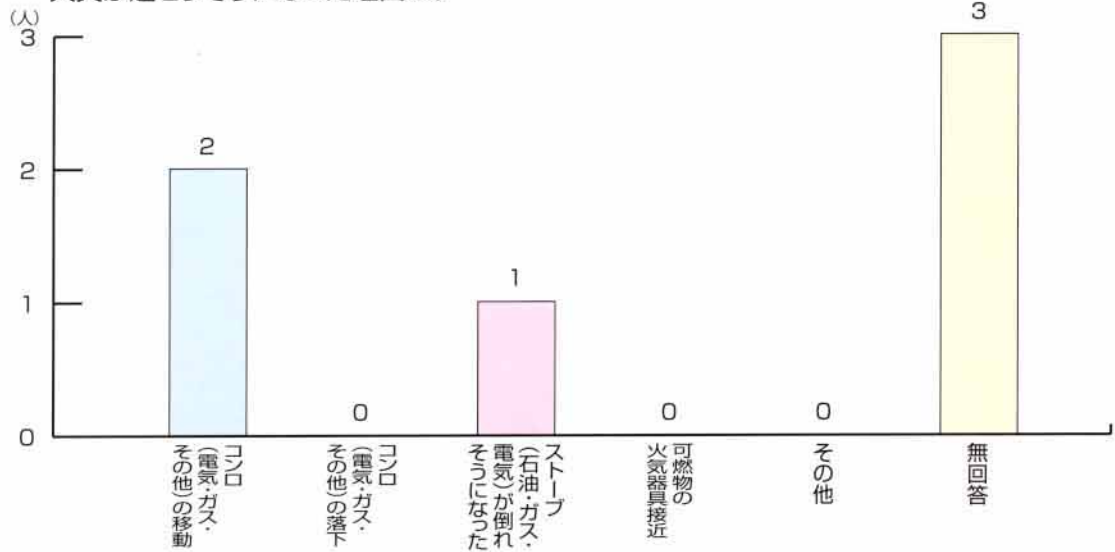
問10 使用していたガス機器のマイコンメーターは作動しましたか。



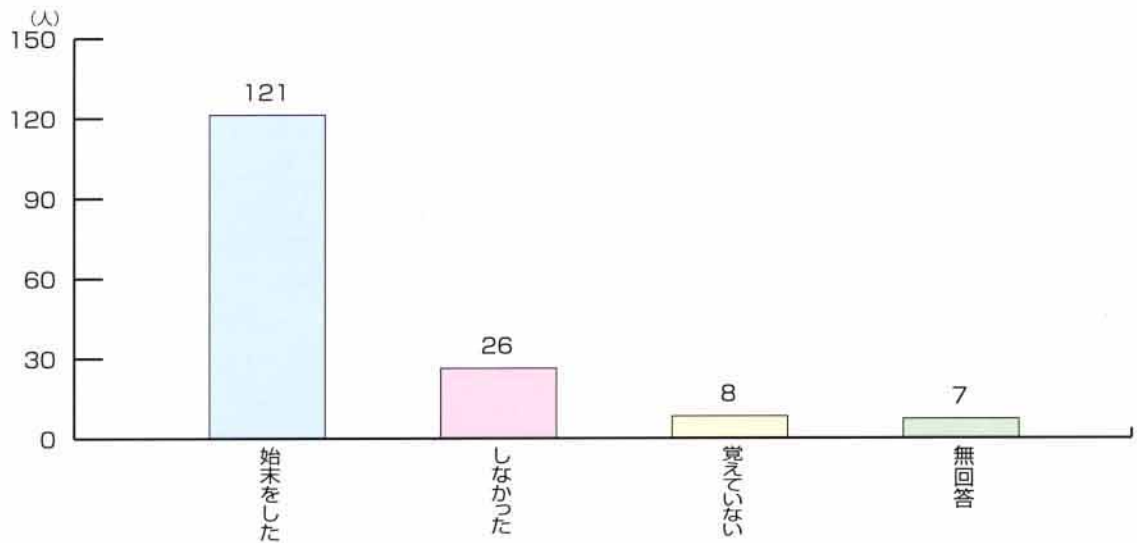
問11 使用していた火気器具から火災が起こりそうになりましたか。



問12 問11で「なった」と回答された方へ。火災が起こりそうになった理由は。



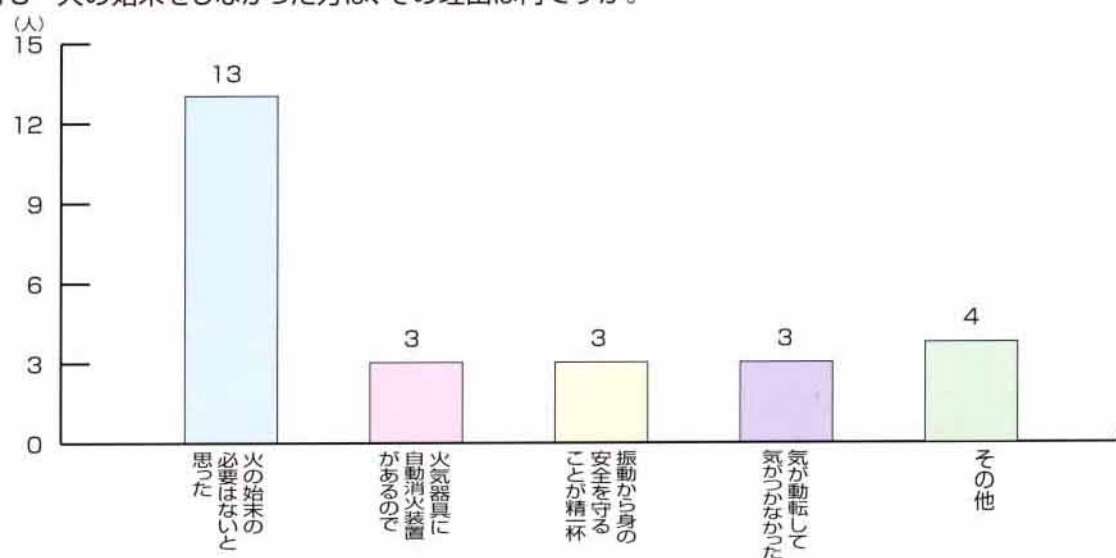
問13 火気器具を使用していた方は、火の始末をしましたか。



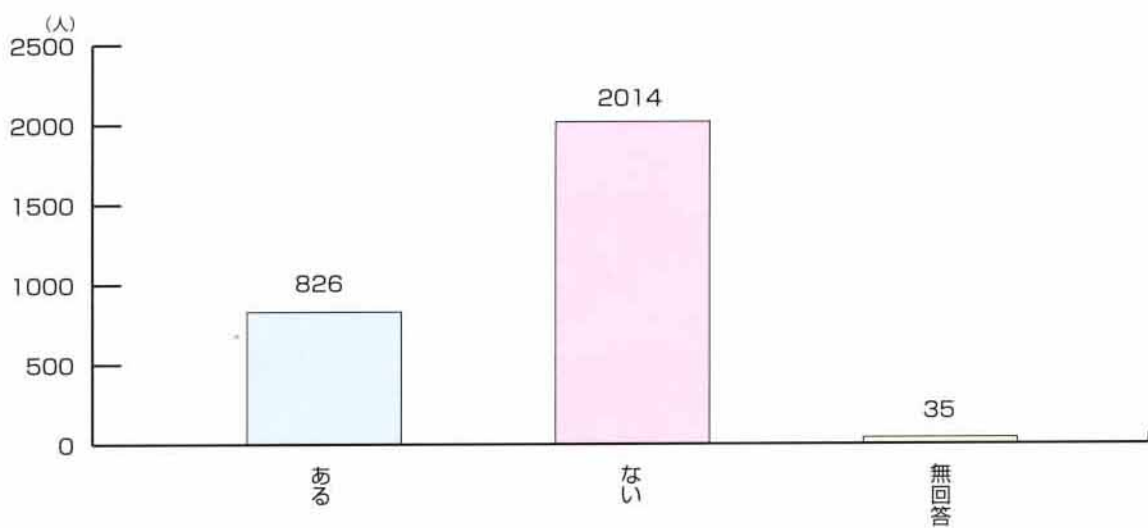
問14 火の始末をされた方は、その時期はいつですか。



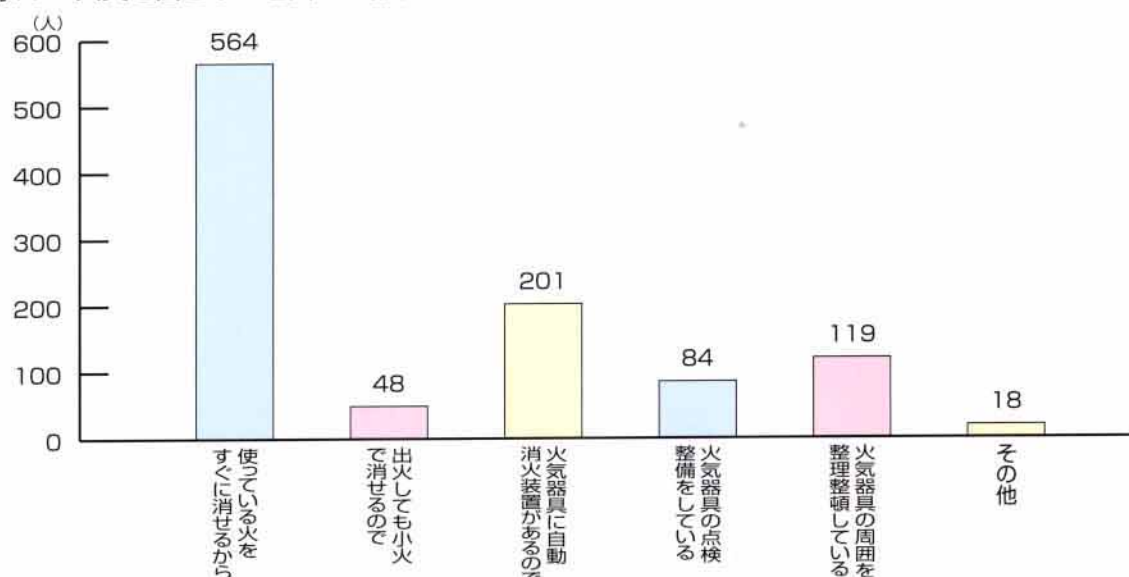
問15 火の始末をしなかった方は、その理由は何ですか。



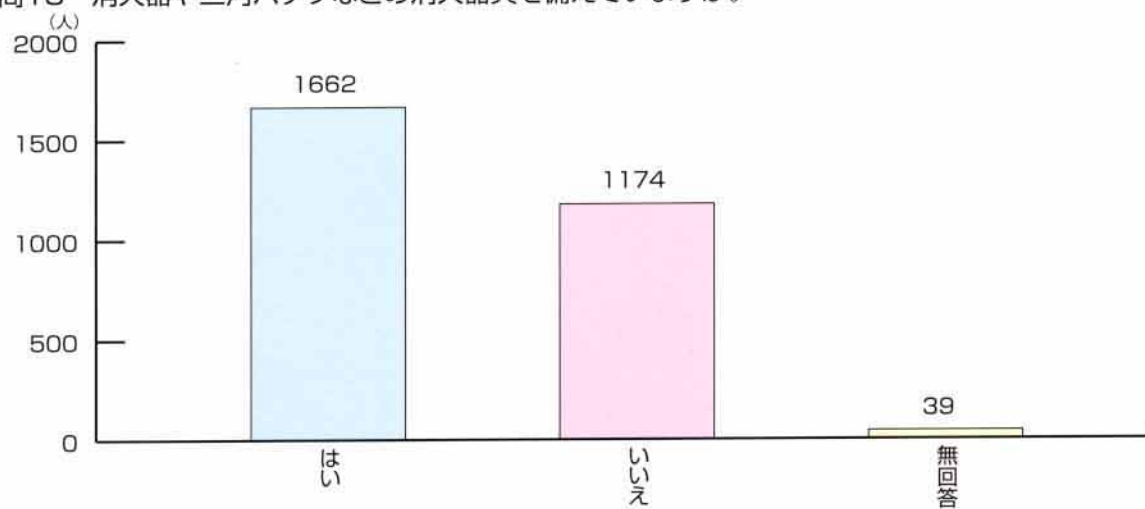
問16 地震の場合、火災を出さない自信は。



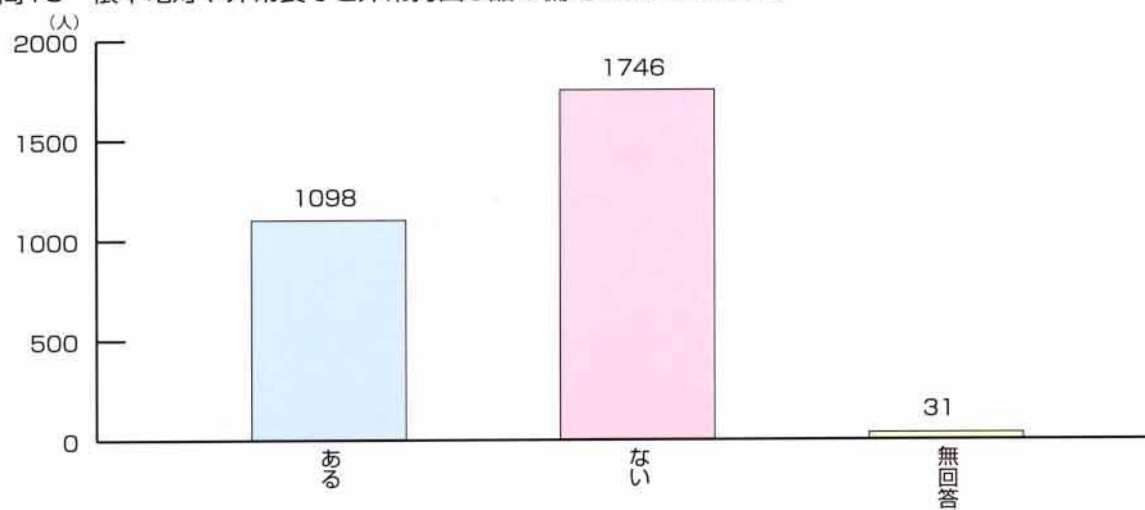
問17 火災を出さない理由は。(複数回答可)



問18 消火器や三角バケツなどの消火器具を備えていますか。

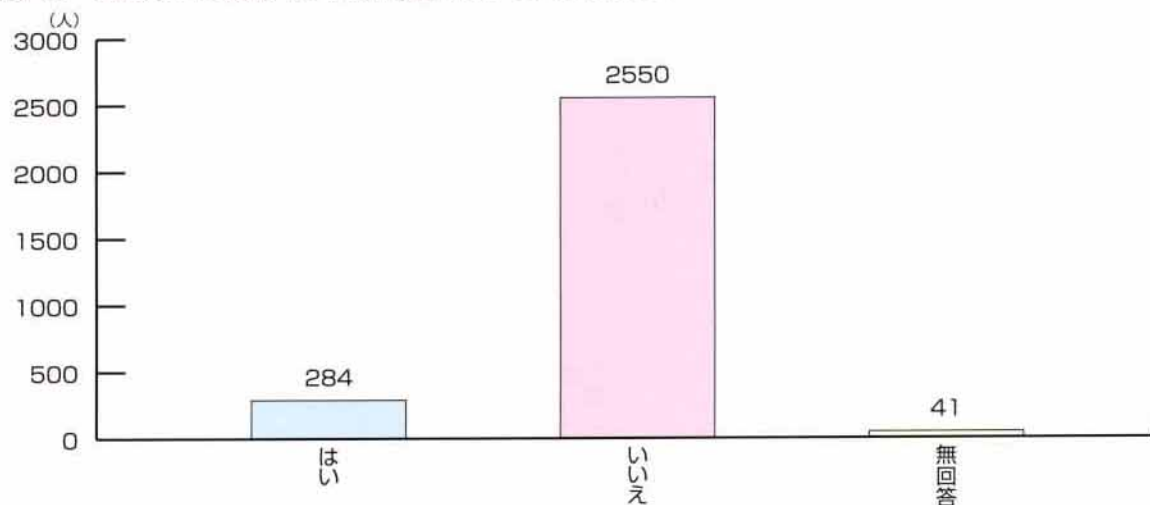


問19 懐中電灯や非常食など非常持出し品の備えはありましたか。

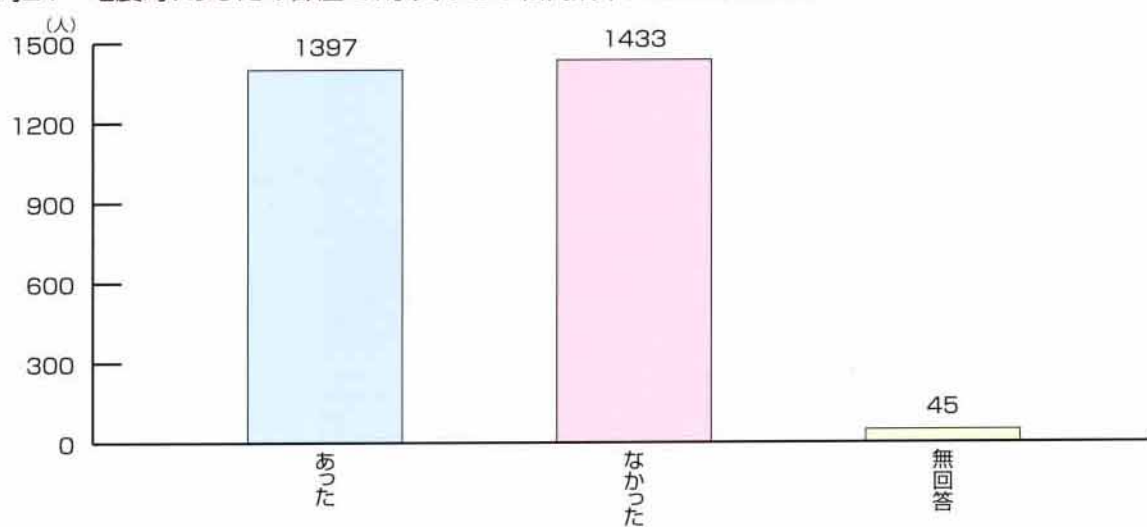




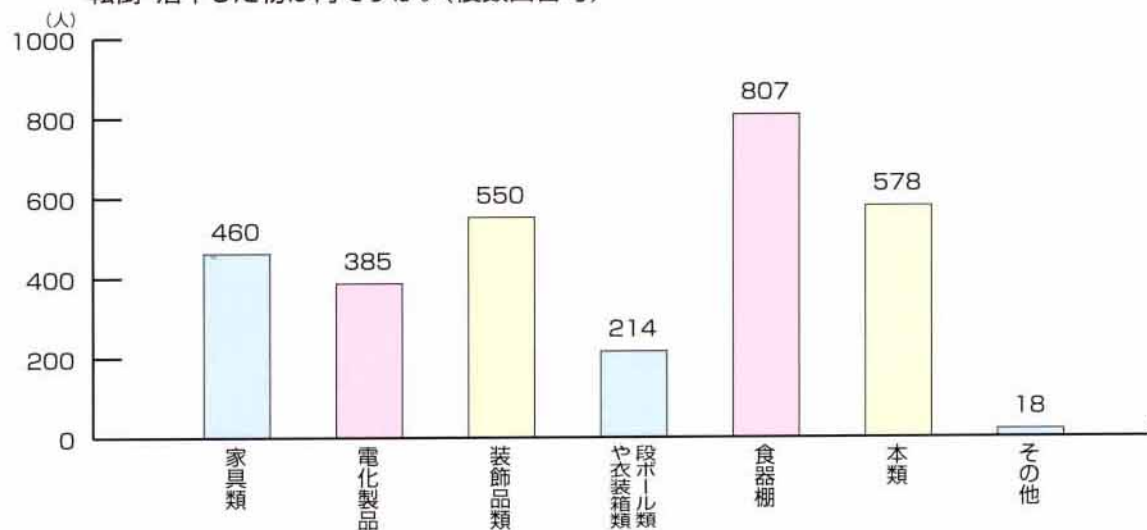
問20 家具などの転倒・落下防止措置はしていましたか。



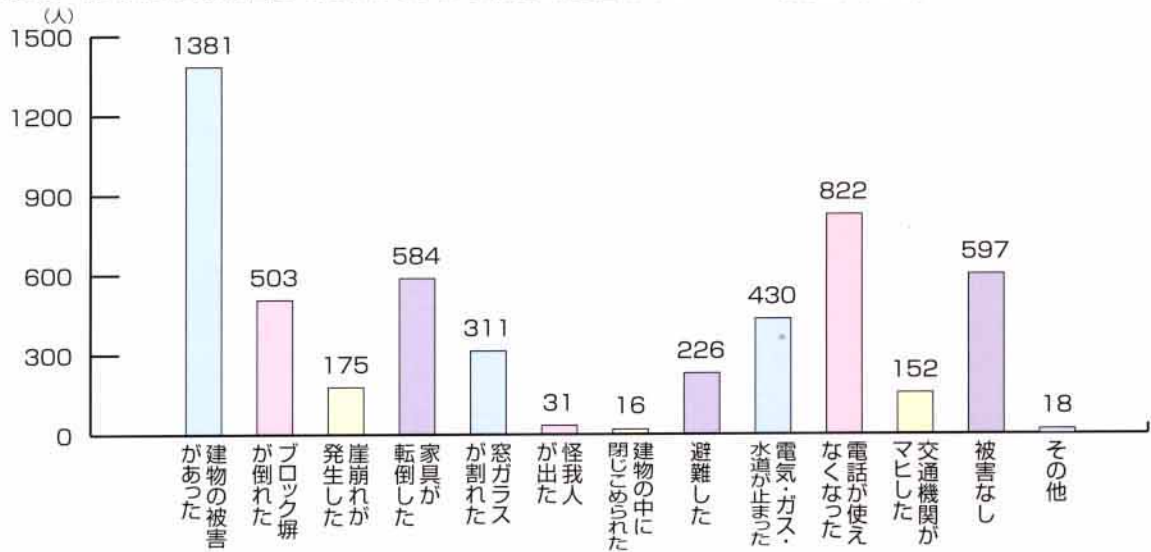
問21 地震時、あなたの部屋で、家具などの転倒落下はありましたか。



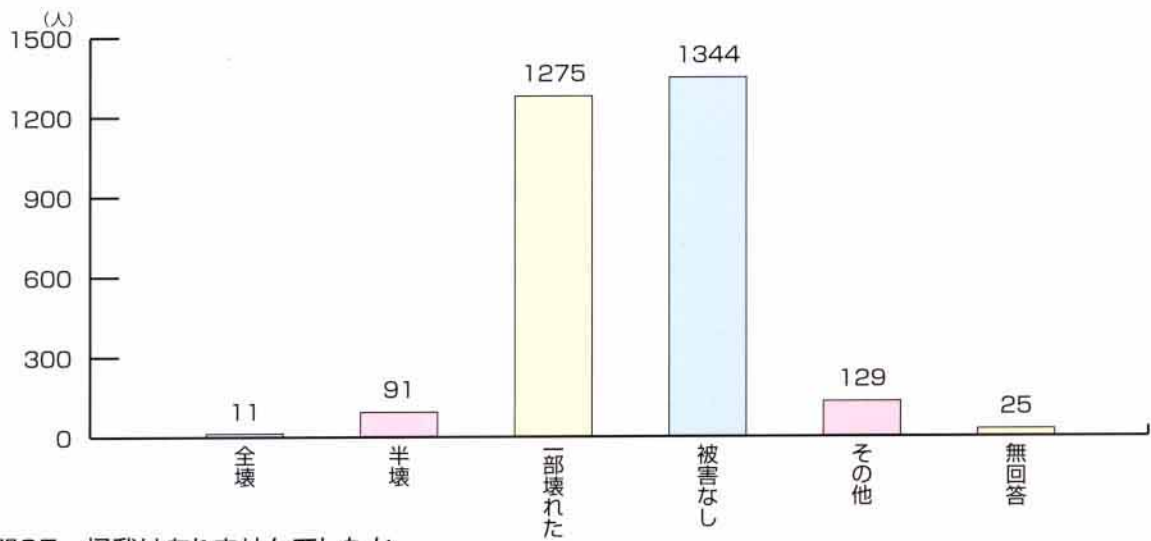
問22 問21で「あった」と答えた方に。  
転倒・落下した物は何ですか。(複数回答可)



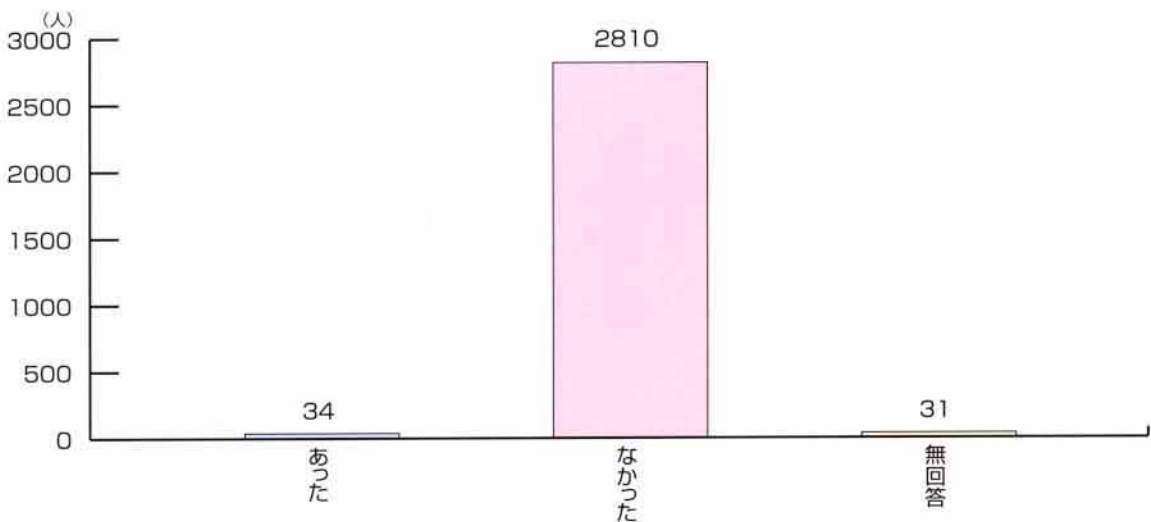
問23 あなたの家の周りでは、どのような被害が発生しましたか。(複数回答可)



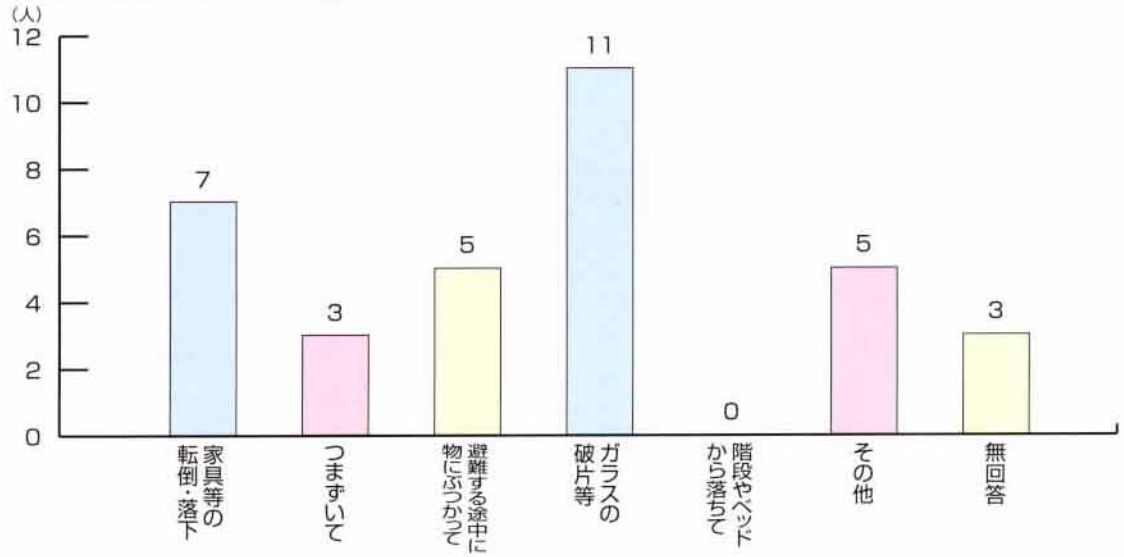
問24 あなたの家の被害はどのくらいでしたか。



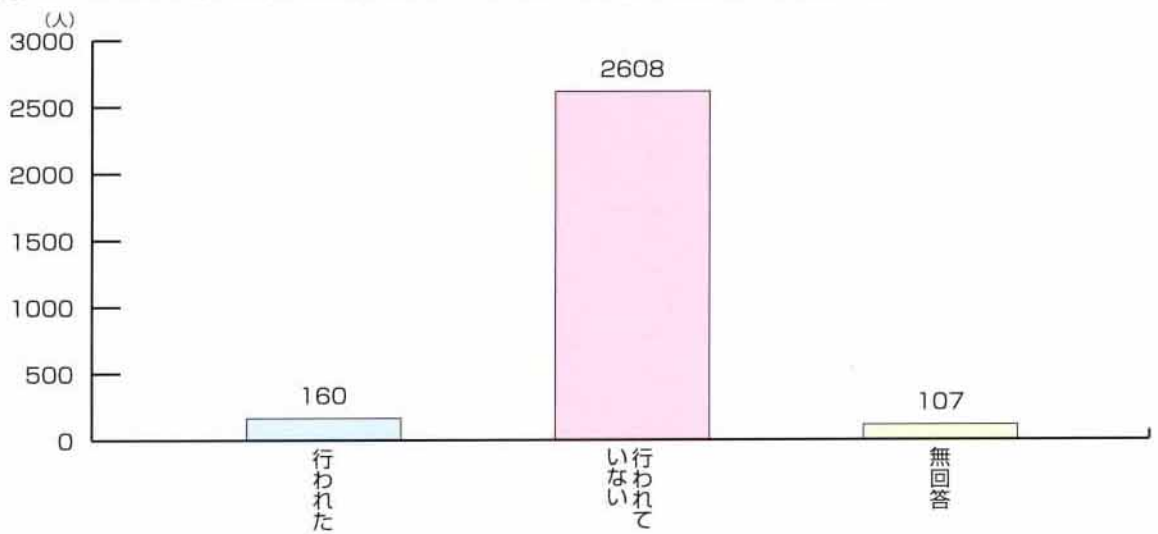
問25 怪我はありませんでしたか。



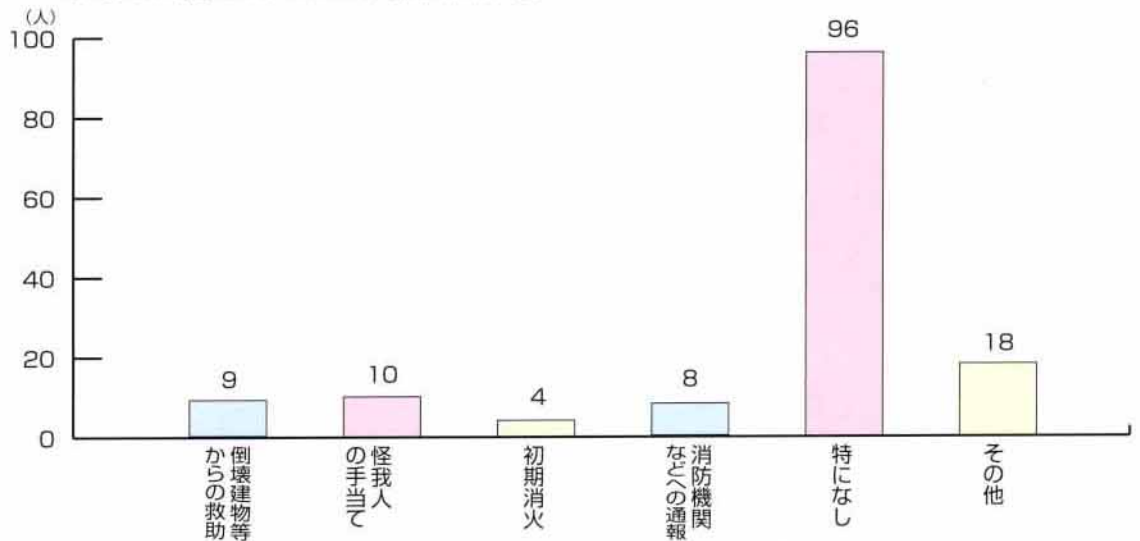
問26 怪我をした方は何が原因ですか。



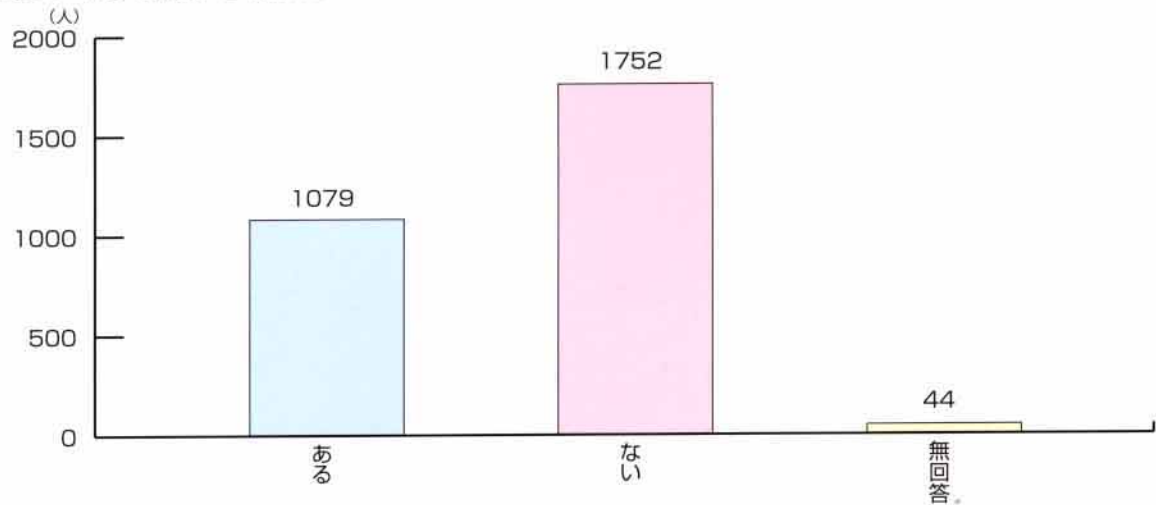
問27 あなたの家の周りで地域の住民による救助活動などが行われましたか。



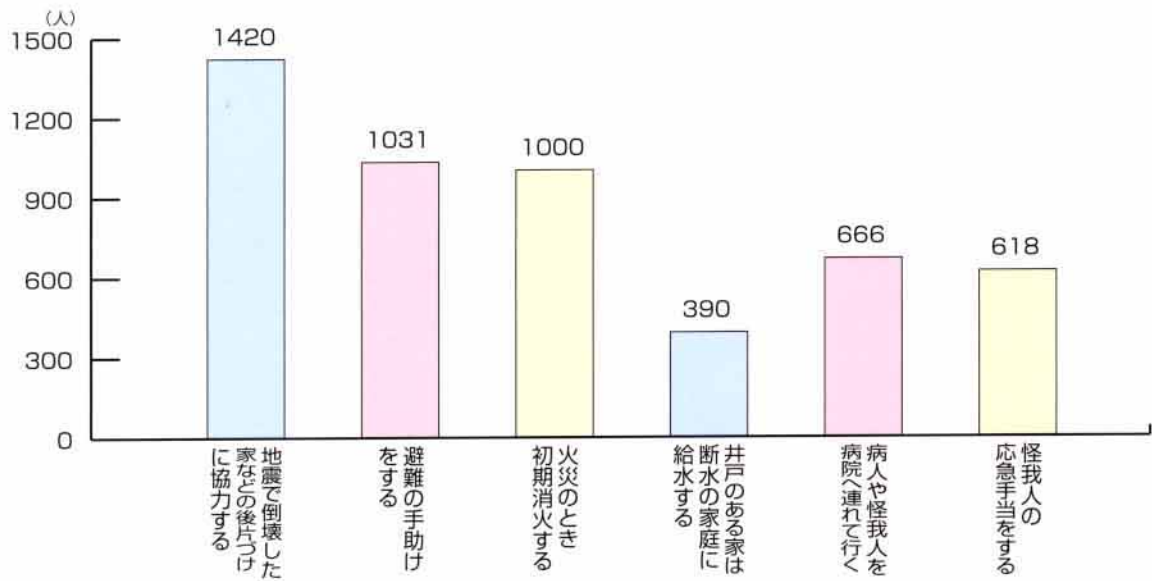
問28 問27で「行われた」と答えた方に質問します。あなたは、何をしましたか。(複数回答可)



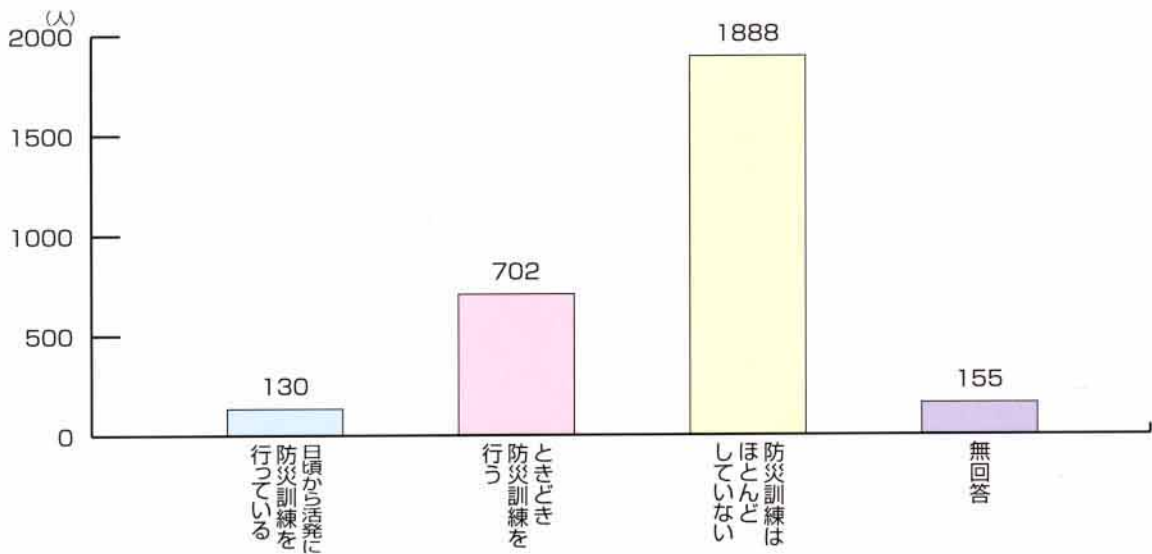
問29 防災訓練に参加したことがありますか。



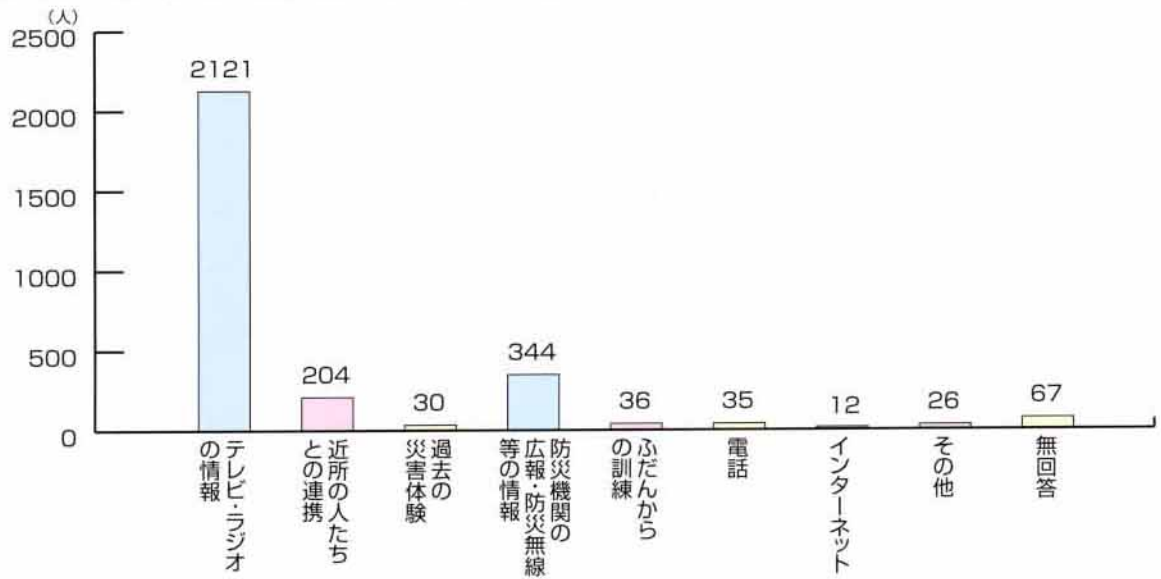
問30 お隣やご近所との関係について、該当するものをえらんでください。(複数回答可)



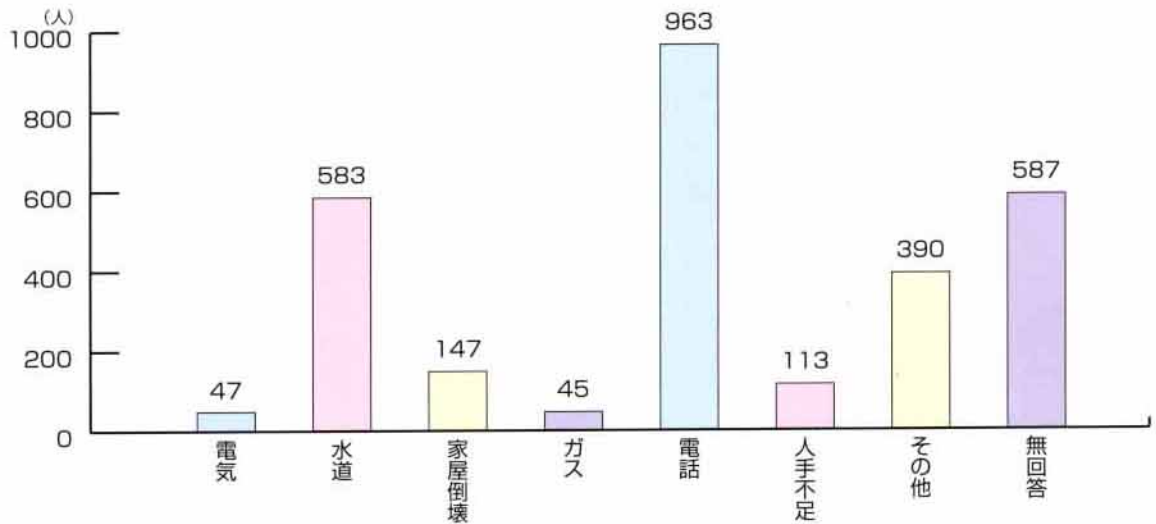
問31 町内会、自治会の活動は活発ですか。



問32 地震時に最も有効であったと思うのはどれですか。



問33 地震の後、一番困ったことは何ですか。



## 第2章 平成12年鳥取県西部地震について

鳥取大学工学部  
教授 西田 良平

平成12年10月6日午後1時30分に発生した「平成12年鳥取県西部地震」は山間部に発生した地震でありながら、鳥取県西部を中心に大きな被害を出している。しかし、幸いにも亡くなった人がない、火災の発生が0件、激しく揺れたのに全壊家屋が少ないなど、兵庫県南部地震による阪神・淡路大震災とは規模がほぼ同じでありながら際立った違いを示している。被害の特徴、地震の特徴など、現在判っている事について検証してみる。

### 1. 震度分布

地震が発生すると、テレビの画面に最初に震度情報が出る。震度はその場所の揺れの強さを表すもので、震央に近い所では大きな震度を示し、遠くになると小さな値を示す。今回の地震の主な震度を以下に示す。

震度6強	日野、境港
6弱	西伯、溝口
5強	米子、新見、岡山哲多、落合、美甘、香川土庄
5弱	松江、東郷、岡山、玉野、福山、徳島、観音寺、兵庫津名
4	鳥取、出雲、倉敷、広島、高松、松山、高知、大阪、神戸

詳しい震度分布が出されていますが、上の震度の表を見ると、今回の地震の特徴が見えてきます。

- ① 山間部の日野町と沿岸部の境港「震度6強」を記録している。
- ② 震度の大きな地域が岡山県から四国まで、南側に広がっている。
- ③ 松江、鳥取、出雲など、震源までの距離が近いのに震度が小さい。

### 2. 被害の特徴

被害は震度6の地域に集中しているが、マグニチュード7.3の地震にしては被害が少ない。死者0名、火災発生0件がこの地震を象徴している。発生時間が午後1時30分、震源が山間部で激震域も都市部でなかったことが原因の1つである。

被害の種類は、家屋の倒壊、山間部での斜面崩壊、落石などの地震動による被害と沿岸部での液状化現象による地盤災害がある。前者は日野郡黒坂、下榎地区、西伯町、溝口町などが大きな被害を出したが地盤が比較的良かったために、全壊になるべきところが半壊になっていると推察される。また、山間部を走る道路、鉄道は大きな被害を受け、不通か所が多く出た。

境港市、米子市では都市型の被害が出ている。港湾岸壁の崩壊、マンホールの抜き上がり、電信柱の沈下など、ライフラインの被害が随所に見られる。

### 3. 本震と余震分布

本震は西伯町の地下10kmの所を震源として、震源断層が北北西—南南東の走行で、約20kmの長さの左横ずれ断層を示している。マグニチュードは7.3と、気象庁が発表している。

余震活動は、震源断層に沿った細長い帯状の地域に集中している。この中で、最大余震M5.0が北の端近くに発生している。余震活動は順調に減衰している。そして、誘発地震群が二か所あり、割算型の分布をしている。南西にある日南町—横田町ではマグニチュード5.5の地震が発生している。

### 4. これまでの地震活動

#### a. 山陰地方の歴史地震（被害地震）

今まで4つの大地震が記録されている。島根半島のこの地域は880年の出雲地震以来1100年間大地震が起きていない。明治以来、日本海沿岸に沿った大地震は浜田地震、北丹後地震、鳥取地震と発生して、鳥取県西部で起きていない。

#### b. 最近20年間の中地震

1977年（M5.3）、1978（M6.1）と三瓶山周辺で発生し、小地域ながら被害を出し、温泉の増水、泉温の上昇など異変を発生させた。この地域の活動は最近でも継続している。広島県北部も群発地震が発生する地域活動域である。

1983年に鳥取県中部の地震（M6.2）、1985年には大山付近の地震（M4.9）が大山山頂から数km東に発生した。そして、今回の平成12年鳥取県西部地震を含む鳥取—島根県境地域の活動である。1991年には島根県東部の地震（M5.9）が発生した。また、1983年からの地震活動は東から西へと地震活動が移動し、これらの中地震の発震機構はいずれも左横ずれ断層で、地殻応力は大体東西方向の圧縮力である。今回の地震の震源断層、地殻応力はこれらと一致している。

#### c. 鳥取県西部・島根県東部の地震活動

鎌倉山南方活断層に直交する地下断層の地震活動は、1901年、1925年、1955年にM5の地震活動があり、約30年間隔で活発化している。11年前から、1989年にM5.3、5.4、1990年にM5.1、5.2、5.1、1991年にはM4.6、1997年にM5.2と今回のM7.3の震源断層と同じ場所で発生している。

# 5

まとめ



# まとめ

## 鳥取県西部地震の考察

今回の鳥取県西部地震の被害の特徴としては、マグニチュード7.3、最大震度6強という地震にしては、火災と死者の発生が全くなかったことがいえる。その理由として、次のことが考えられる。

- ① 震源地周辺の地域が、山間部であり住宅密集地でなかったこと。
- ② 積雪地のため、木造家屋の強度が強かったこと。
- ③ 地震発生時は、昼食時を過ぎており、火気の使用が少なかったこと。
- ④ 10月上旬であり、暖房機器を使用する時季ではなかったこと。
- ⑤ 鳥取県においては、昭和18年に鳥取県大震災を経験しており、地域住民の地震に対する危機意識が高かったこと。
- ⑥ 阪神・淡路大震災以降、消防当局としては、地域住民に対して、起震車を使用しての震災訓練のほか、事業所の防災訓練、防災研修、地域座談会、マスメディアを通じての広報活動などあらゆる機会を捉えて、地震に対する危機意識の啓発に積極的に取り組んできたこと。

主な被害としては、震源地周辺の山間部における家屋の全半壊及び山崩れ、並びに境港市周辺の比較的地盤の弱い地域における家屋の倒壊及び液状化現象などが上げられ、負傷者も同地域に集中している。

また、震源地周辺の日野病院と西伯病院において病院機能を失う被害が発生し、境港市の済生会病院においても同様の被害が発生した。

## おわりに

この度の地震に際して、西部消防局は、地震発生直後に消防職員を全員召集するとともに、災害対策本部を設置し、地震による大規模災害に万全の体制で臨みました。

火災と死者の発生がなかったことと、他の消防本部をはじめ、関係防災機関からの支援活動を早期にいただいたこともあり、災害活動が後手に回ることがなかったといえます。

しかし、火災、人命救助などが多発した場合を想定しますと、自主防災組織等の充実強化を図る必要があると考えています。

今回被災され、今なお避難所生活を余儀なくされている多くの皆様に、心からお見舞いを申し上げますとともに、西部消防局として、安全で安心して暮らすことができる地域づくりに総力をあげ取り組んでいく所存です。

平成12年(2000年)  
鳥取県西部地震の概要と検証

平成12年12月発行

---

発行 鳥取県西部広域行政管理組合消防局

編集 「西部地震活動記録編集部会」

部会長 消防局予防課 課長 補佐 永嶋 一夫

部会員 消防局予防課 危険物係長 桑名 強

◇ 消防局予防課 主 幹 濱本 徳男

◇ 消防局警防課 救急救助係長 武本 和之

◇ 消防局警防課 主 幹 杉村 正男

◇ 消防局総務課 教養係長 加藤 雅夫

◇ 消防局指令課 情報係長 船越 聡

◇ 消防局指令課 主 幹 松尾 隆博

協力 鳥取大学工学部 教授 西田 良平

資料提供 朝日新聞社・読売新聞社・産経新聞社・新日本海新聞社・山陰中央新報社

印刷 東京印刷株式会社

---

**あなたを守る119番**

**鳥取県西部消防局**

〒683-0853

鳥取県米子市両三柳3060番地の6

TEL (0859) 35-1951

FAX (0859) 35-1961